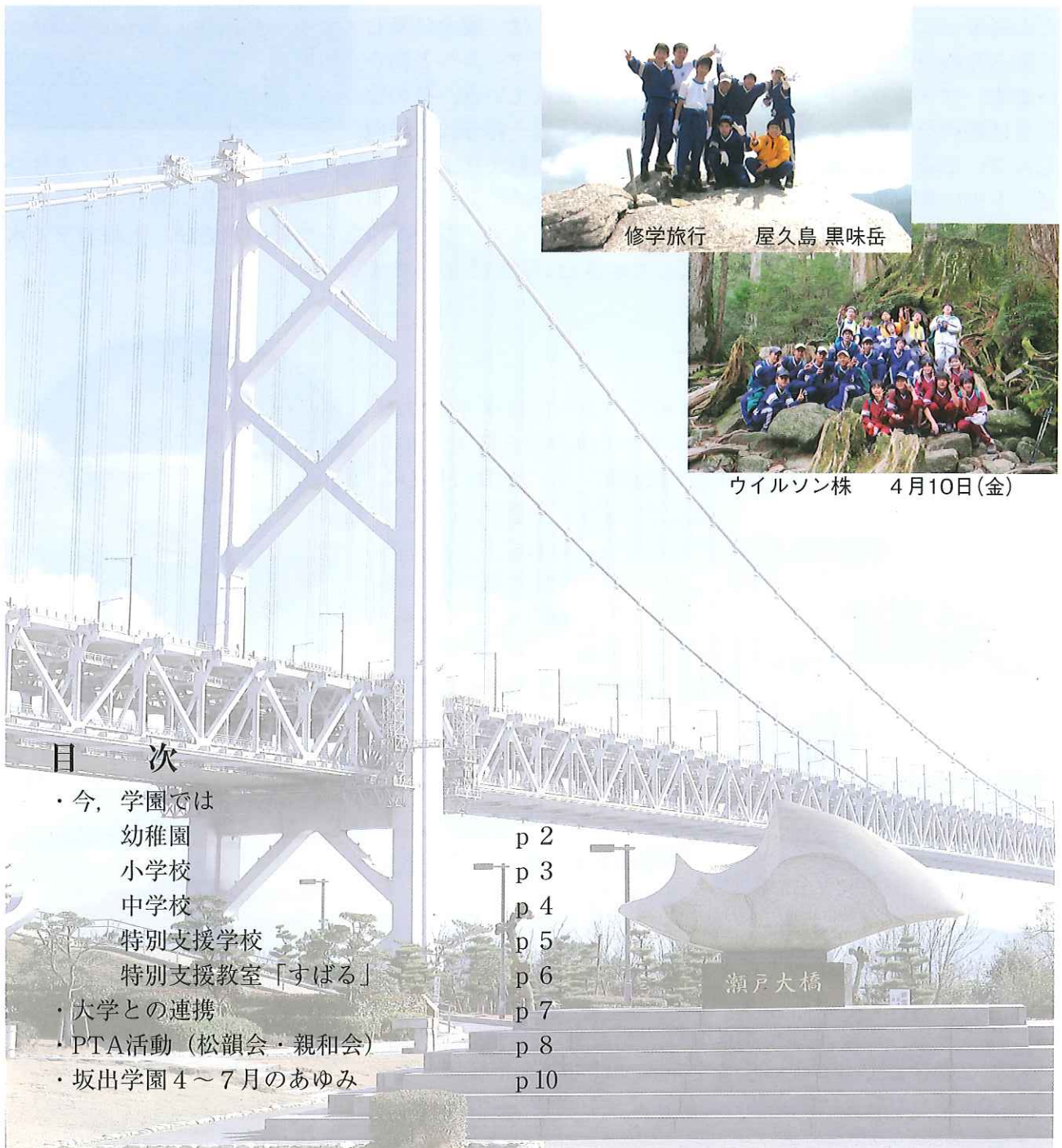


香川大学教育学部

# 附属坂出学園だより

第33号

2009.7



修学旅行 屋久島 黒味岳



ウイルソン株 4月10日(金)

## 目次

- ・今、学園では
  - 幼稚園 p 2
  - 小学校 p 3
  - 中学校 p 4
  - 特別支援学校 p 5
  - 特別支援教室「すばる」 p 6
- ・大学との連携 p 7
- ・PTA活動(松韻会・親和会) p 8
- ・坂出学園4～7月のあゆみ p 10



## 水遊びを楽しんで

### 小学校のプールで ～やった！プール開きだ！～

6月10日に予定していたプール開きが天候のため延期となり、子どもたちは少し残念な思いをしたのですが、12日は恵まれた天気の中でプール開きをすることができました。

幼稚園から小学校のプールまでは、青組さんは黄組さんと、赤組さんは赤組同士でペアになって歩いて行きました。幼稚園のみんなで水着にサンダルをはいて行くことが嬉しいようでした。また、小学校のプールを見ると水に入りたいという気持ちが、だんだん高まっているようでした。プールに入る前には、安全に楽しく遊ぶための話を聞き、シャワーをあびて、いざプールへと向かいます。プールサイドで足から少しずつ水に慣れていき、その冷たさに歓声をあげていました。プールの中では思う存分に水に親しんでいる姿でいっぱいでした。プールに行く回数が増え、水に慣れ親しむようになると、大きなビート板に乗って友だち数人と泳いだり、それを船に見立てて引っ張ってみたり、潜りっこをしたりと思いつきの遊びを繰り広げ、目を輝かせています。この季節ならではの水遊び、太陽の下で水に全身で親しみ、楽しい時間を過ごしていきたいと思います。



### 園庭で ～水遊び いろいろ～

**青組** 青組のテラス前では、金魚すくいならぬ魚すくいで盛り上がっています。スチレンにマジックで魚の絵を描き、水に浮かべます。すると本物の魚のように水面にゆれる魚たち！それをそ〜っとそ〜っとすくって遊んでいます。一匹二匹…とすくっていると、赤組や黄組の子どもたちも「いれて」と遊びのなかに入り、青組の前で小さなお祭りのように楽しんでいます。



**赤組** 赤組のテラスの前では、泡づくりが人気です。石けんを細かくおろして水に溶かして手で泡立てます。すると泡がもこもこと出てきます。容器の中が泡でいっぱいになったらソフトクリームの形にしたり、ふ〜っとふいてシャボン玉を作ったりして遊んでいます。泡の感触は手にとってもやわらかく感じ、様々に形を変えるので、イメージを膨らませて遊んでいます。

**黄組** 園庭でのプール遊びも楽しんでいる黄組の子どもたち。小学校のプールは、子どもたちにとって少し深いのですが、ビニールプールだと、お尻をつけてバシャバシャしたり、「ワニさんになろう！」と体全部を水につけて手で歩いたり水に親しむ様々な遊びができます。全身を水につけて遊んだ後は、水のかけあいをしたり水鉄砲を使って遊んだりして楽しんでいます。





## 知の更新をめざした「思考力」の育成 —言語活動を充実し、思考様式を顕在化する授業づくり—

附属坂出小学校では、昨年度までの「思考力」研究の成果と課題を継承し、言語活動の充実と学ぶ集団づくりを通して、子どものもつ認識が新たになるような「思考力」を育成しようと研究を始めました。

今年度は、子どもの認識の壁はどこにあるのかを見極めて問いを設定し、吟味の核となる反応を想定し、「思考様式」を顕在化、吟味する言語活動を充実させようと試みています。さらに、その効果を質的、量的に検証しています。

以下に、今学期実践しました授業の一端をご紹介します。

### ●●● 研究授業 ●●●

#### 「紹介しよう えさをとるくふう—『自然のかくし絵』—」

中田 祐二

6月1日

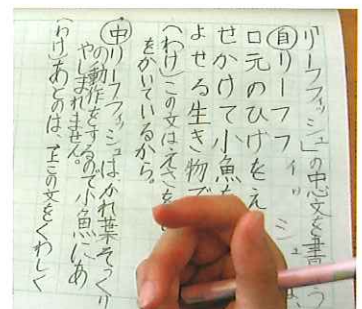
3 西  
国語科

大学との  
合同研究  
集会

本単元では、「読むこと」と「書くこと」を関連させながら、説明文において中心文を捉える力の育成を図りました。そのために、「書く」活動として捕食の工夫をする生き物たちの紹介文づくりを設定しました。

本時、子どもたちは、リーフフィッシュのもつ様々な工夫から最も伝えたいものを選び、中心文に表しました。しかし、それを文脈の中で見た時、「オオグチボヤと同じ工夫をまた書いてもつまらないよ。」と立ち止まりました。そこで、リーフフィッシュだけの工夫を再度、資料から選択し交流することで、「他の生き物とのちがいを見つければよい」という思考様式が顕在化されました。さらにこの思考様式を『自然のかくし絵』の読みに活用し、コノハチョウだけにあるかくし絵の特徴は「形」であることから、それを手がかりに当該段落の中心文を捉えていきました。

参観された大学の先生方からは、「子どもが、自分の考えを表出しようと試行錯誤している場面こそ大切に」「思考と表現を一体化し、その子なりの考えが明らかになっていくような研究を期待している」等のご示唆をいただきました。

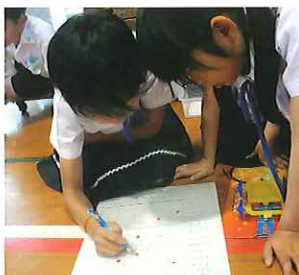


【中心文になる情報を選んで】

#### 3年 理科 「風やゴムの力で動く車の操縦名人になろう」

二神 朋人

本単元では、風の強さやゴムを伸ばす量を変えて、車の進む距離を比較し、風やゴムの性質や規則性を捉える力の育成を図りました。本時、子どもたちがゴムの伸びと車が進む距離の関係に目を向けられるように、ゴムカーを使ってゲーム大会を開くことにしました。大会は、ねらったゴールラインに3回で近づけるルール設定にしました。すると、大会で勝ちたいと願う子どもたちから自発的に検証実験の要望が生まれました。それにより、本単元の思考様式である「ゴムの伸びと車が進む距離の関係に着目する」必然性が生まれたわけです。算数でグラフを学習していない時期でしたが、表にシールを貼っていくことで実物の動きと対照させながら記録していくことができました。そして、実験の過程でゴムの伸びと車が進む距離には関係があることを捉えることができました。



大会本番に向けて、検証実験で記録しておいた図表を活用し、ゴムを伸ばす長さをグループで話し合いながら作戦図にまとめました。その作戦図を2回の作戦タイムで修正しながら車の進む距離を調整する子どもたちの

姿が見られました。

【図表を用いて関係を見る】姿が見られました。



# 「学ぶこと」と「生きること」の統合

—主体的に学び続ける集団へのアプローチ—

## ～生涯にわたって自ら進んで学び続ける生徒を育成する～

中学校では、昨年度の研究大会以後、新しい研究に取り組んでいます。これからの時代を切り拓いていく子どもたちにとって必要な力は、「生涯にわたって学び続ける力」であると考え、新たな取り組みをスタートさせました。

昨年度までの、シャトル学習や総合学習の研究成果、また本校の研究の歴史と成果を踏まえつつ、より豊かな学びを実現し、一人一人の子どもへの学びへの意欲の向上をはかる実践に取り組んでいます。「気づき」「学びの意味の実感」「集団へのアプローチ」等をキーワードとして、新たな視点でスタートした「シャトル学習」「総合学習」について紹介します。

### 「シャトル学習」 ～異学年合同で取り組む発展的な教科学習～

昨年度まで研究を行ってきた「シャトル学習」を教科の学習における発展的な学習として行っています。

ここでは、それぞれが教科学習において培ってきた知識や技能を活用し、教科の内容における探究的な学習を行います。さらにここでの学びは、教科の学習内容を充実させるだけでなく、本物の研究者として探究する学びを体験する総合学習へとつながるものとなります。まさに、学校での学びと現実の学びをつなぐシャトルとなる学習です。



### 「総合学習」 ～3学年合同で研究チームとして現実の問題を探究する～

学校での学びは将来、自分の役に立つのか？こんな問いがよく聞かれます。今年から総合学習では、興味ある現実の問題をテーマとして、3学年の生徒がチームを編成し、研究を進め、発信するという本物の学習に取り組んでいます。「もの」「ひと」「こと」の3つの視点からチームを編成し、現在そのチームで探究するテーマを検討しています。夏季休業も活用し、研究を深めるべく計画も練っているところです。ご家庭でも、研究者としての子どもたちに助言をお願いいたします。



### 親子セミナー 『脳と心を元気にする七つの習慣』

香川銀行能力開発研究所 所長 倉本 英雄 先生

倉本先生の豊かな経験とヨガの実践をもとに、お話をいただきました。生きるとこととは？そして「豊かに生きるためには」という点についてわかりやすくお話いただきました。日常生活で簡単に実践できるヨガについても紹介いただき、ぜひやってみたいと思いました。





## 進路選択の機会 「体験入学」

来年度、本校の小学部へ就学、また中学部、高等部へ進学を希望する地域の児童生徒本人、及び保護者、学級担任等を対象に、体験入学を実施しました。



我が子の将来のことを考えると、これから必要なことは？どんな学習をしておけばいいの？

生活上、あるいは学習上で様々なつまずきがあったり、育ちに遅れがあったりする子どもの就学や進路選択の機会として、毎年6月に体験入学を実施しています。毎年多くの子どもたちやその保護者、また先生方に参加していただいています。



### 体験入学

● 期 日 6月15日（月曜日）9：00～11：50

● 日 程

9：00～	受付
9：15～9：45	全体説明
9：55～10：40	学校見学
10：50～11：50	体験学習 (中学部・高等部生徒対象) 各学部の教育内容説明会 (小・中・高等部保護者対象)
11：50	解散

★ 小学部児童の体験入学は、  
6月23日（火曜日）13：00～14：00 に2回目を実施  
【内容】遊びの指導（集団でうた遊び・自由遊び）

小・中・高等部の児童生徒、その保護者、担任等、合わせて82名の方が参加しました。

本校の教育の概要について説明を聞き、実際に施設や授業を参観することで、より具体的に本校の教育活動を理解していただけたのではないかと思います。また、先生方にとっては、特別支援教育の研修にもつながったのではないのでしょうか。



### 小学部

「ことば・かず」の授業を参観。

前半は、集団学習  
後半は、個別の学習  
組み合わせて指導しています。



### 中・高等部

数学や国語の教科学習を参観後、作業学習の体験をしました。農耕班では、ジャガイモの収穫に汗を流しました。

毎年5月に、「体験入学案内状」を地域の各学校園に配布しています。また、ホームページでもご案内させていただいています。

<http://www.ed.kagawa-u.ac.jp/~tokusi/index.html>



## 21年度 特別支援教室すばるの相談活動から

### 1. 電話相談

本教室では、平成15年度当初より、個別指導と併せて相談事業にも力を入れてきました。特に、保護者においては、急な対応が必要となったときに、どのようにすべきか迷って困ることがよくあると考え電話相談を開くことにしました。



初年度は、「宿題に取りかかれず、どのようにしたらよいか。」「朝の準備ができず、登校を嫌がるがどうしたらよいか。」「友だちとケンカして帰り、家でも落ち着かず困っている。」等の早急に対応すべき相談が多くあがっていました。その後、だんだんと早急に対応するものの相談ばかりでなく、ちょっとした相談が多くなってきました。例えば、「鉛筆がよく無くなって帰るが、どうしたらよいか。」「いつも兄弟げんかをしてしまうが、やめさせる方法はないか。」「宿題が終わらず、夜遅くまでかかって困る。」「ゲームを遅くまでして困る。」等です。

いずれの相談においても、発達障害のある子どもたちだけに限られる相談は少なく、どこの家庭においても当たり前のように起こることです。しかし、その対応が、口やかましく叱るだけではよくならず、どの保護者もお手上げ状態になっていることがよく伝わってきます。

本教室からのアドバイスは、その子の年齢や認知能力・行動特徴・興味関心・思いを理解した上で、家庭状況・学校園の様子を加味して保護者が実行できる具体的な方法をいくつか提案し、その中から1つを選び、子どもができたことを認めるための方法を提示することが、基本となっています。

また、担任の先生方からも、電話相談を受けることが多くなってきました。内容は、「パニックになったら、どのように対応したらよいか。」「整理整頓ができず、困る。」「漢字が覚えられない。」「文章題ができない。」等、多岐にわたっています。

本教室からのアドバイスは、保護者の場合と基本的には同様に、本人の状態と家庭の様子・学校での様子を元に、クラスの中の一人として担任ができる対応は何かを話し合うことにしています。

以上のように、本教室に申込があり、保護者と本人に面接をした後であれば、アドバイスが具体的にできるようになりますが、一度のアドバイスではなかなか改善が難しい場合もあります。

### 2. 個別相談

個別相談は、内容が電話相談に比べてより複雑な場合が多く、すぐに解決できないことがあります。特に最近では、保護者相談では、進路問題が多くよせられるようになりました。小学校入学に際して、「どの程度本人のことを、担任や友だちに知らせたらよいか。」「どんな支援をしてもらえばよいか。」「特別支援学級に入った方がよいかどうか。」等であり、中学校入学でも同様に、支援の程度と周囲の友だちや先生に対して本人理解をどのように進めていけばよいか等があります。高等学校への進学は、入試のための学力の問題がまず相談されます。次に、入学後の友人関係がうまく

築けるかどうかの相談があります。これらのことに対して、本教室の

アドバイスは、当然、本児の状態と希望、保護者の思い、入学する学校の情報を考慮し、継続的に相談をおこなっています。

担任からの相談の多くは、保護者の思いと担任の思いのズレに困っていることです。本教室のアドバイスは、担任としてすぐにできることとできないことを明確に伝え、家庭の協力を求めることが大事なことでと助言します。

本教室の相談において、大切にしていることは、具体的な方法を提案することです。そして、そのアドバイスの効果が明確になることにより、相互の信頼関係が深まっていくものと考えていま

す。





## 授業のほかに、先生はどんなことをしているの？ ～附属学校園と大学との共同研究プロジェクトから～

香川大学教育学部 附属教育実践総合センター 准教授 松下 幸司

「先生はいろんなことを教えてくれたり、一緒に掃除したり遊んだりしてくれてるけど、ぼくらが学校から帰ったら、先生はどんなことをしているのかなあ？」…子どもたちからこんなことを尋ねられたら、保護者の皆様はどのようにお答えになられるのでしょうか。ここでは、子どもたちが学校にいない時間帯の附属坂出学園の先生方のお仕事の様子を、少しご紹介したいと思います。

一昨年度（2007年度）から、附属学校園の先生方と私も香川大学教員が研究グループをつくり、『わかる授業』のためのメディア活用に関する研究プロジェクト」という共同研究をすすめてきました。テレビに始まり、コンピュータ、デジタルカメラ、ビデオカメラなど、私たちの周りには様々な“情報メディア”が存在します。この研究プロジェクトでは、これらの情報メディアを授業や学習活動でどのように使えば、子どもたちにとって、より『わかる授業』に繋がっていくかを研究の中心テーマにしています。高松・坂出附属学校園の先生方が集まり、年に何度か開催される研究プロジェクト会議では、午後6時…7時…8時…と夜遅くまで議論が交わされました。

この研究によって明らかになった、授業が「わかる授業」になるための要素（条件）を手がかりにして、各附属学校園の先生方と、実際に「情報メディアを活用した『わかる授業』づくり」を行いました。各附属学校園の先生方が、例えば、数学や技術、総合的な学習の時間など、「教科を限定しない」「普段どおりの」授業の中で、『わかる授業』を目指したメディア活用の可能性を検討し、実際に授業を行いました。本稿では、それらの授業の1つ、附属特別支援学校小学部で行われた生活単元学習『GO!GO!遊園地!!』の授業でのメディア活用の様子を紹介し、その裏側の先生方のお仕事を少し覗いてみたいと思います。

附属特別支援学校小学部では、2月の校外学習でニューレオマワールドに向かいます。その事前授業として、[乗りたいアトラクション]や[楽しみたいこと・遊びたいこと]を一人ひとりが自分で選び、グループで活動計画を考える授業が行われました。そこで登場したのが「タッチパネル式モニタ」です（→写真1）。子どもたちの中には、見ている画面と違う場所にあるマウスをクリックして選ぶという動作に難しさを感じる子もいます。タッチパネル式モニタを活用することによって、マウス操作が邪魔にならず、「知りたい対象」にたどり着く（＝知りたい情報を得る）ことが容易になります。心理的な負担が軽減されるとともに、大切な「乗りたいアトラクションを選ぶ」という思考に、より意識を集中することができると考えられます。加えて「自分で操作ができた」という達成感にも繋がるでしょう。

さて、この「タッチパネル式モニタ」に映し出す写真や動画は、先生方が実際にニューレオマワールドに行って撮影した素材です。「どんなふうに撮影すれば、子どもたちに『楽しさ』が伝わるかなあ」と、先生方は悩みながら撮影していました。写真2も素材写真の1枚です。先生が楽しそうにアトラクションに乗っています。これは「楽しさ」を伝える写真と同時に、高い場所が苦手な子に「このくらい高いところを走る乗り物だよ」ということが分かり易いように、と考えながら撮影された写真なのです。

それらの素材を学校に持ち帰り、数多くの写真・動画の中から、子どもたちにアトラクションの雰囲気やそこでの活動が理解しやすいように、写真を選び、組み合わせや表示される順序を考え、タッチパネル式モニタに映し出される教材準備がすすめられました（→写真3）。

このように、1つの授業の裏側で、より質の高い『わかる授業』をめざして、先生方は何度も会議をしたり、授業の準備をしています。これからも、附属学校園の先生方と香川大学教員が連携・協力し、子どもたちにとって、より『わかる授業』となるように、研究と教育実践を重ねていきたいと思っています。



写真1

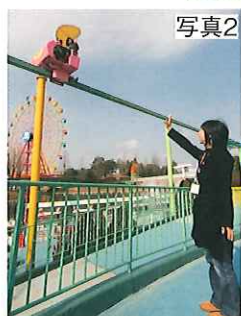


写真2



写真3



幼稚園より

**土曜メンテナンス ～芝生を植えよう～** 6月20日、土曜メンテナンスの活動として、園庭の芝生植え込みのための、土の耕し作業を行いました。

30度を超す暑さの中、朝からたくさんの方にお集まりいただきました。お父さん、お母さんをはじめ、おじいちゃんや小学校の保護者の方々の賢明な作業により、予定時間より早く全てを終える事ができました。

翌々日、耕していただいたスペースに園児と保護者で芝生を植えていきました。小さな手で一つずつ大事そうに植えていく姿をみて、楽しそうに緑一面に駆け回って遊ぶ子どもたちの様子が目に浮かびました。



ご協力ありがとうございました。

**夕涼み会** 7月10日は夕涼み会です。平成13年度より、保護者の企画立案によって催されています。毎年、保護者の方々のご協力で、子どもたちにとって大変楽しい行事となっています。

今（7月初旬）は準備を行っている最中ですが、この学園便りが発行されている時には、盛況に開催された後となっていることでしょう。



～只今準備中～



～昨年の夕すずみ会より～

夕涼み会プログラム

- 5：30 はじめのあいさつ  
各クラスの出し物  
黄組3歳児「おぼけなんてないさ」  
赤組4歳児「ヤッホッホ なつやすみ」  
青組5歳児「にじ」「キラキラぼし」
- 6：00 ゲームやバザー、お店屋さん（くじ、宝物つりなど）
- 7：15 総踊り
- 7：30 おわりのあいさつ

小学校より

**ウエルカムパーティー** 5月16日に土曜クラブの活動として、新一年生を対象に、57組の親子が参加してウエルカムパーティーを行いました。親子で参加してチーム分けを行った後、「お名前教えてゲーム」や「ボール運び」などを楽しみました。保護者の方々は、途中から教室へ移動して、担任の先生を交えての学級懇談会も行い、あまり顔を合わす機会の少ない保護者にとっては、よい情報交換の場になったようです。



**土曜メンテナンス** 6月20日に土曜メンテナンスとして、小学校で進めている「校庭の芝生化」をお手伝いするために、芝生の植え付けを行いました。天気快晴の下で62組の親子が参加して、シャベル片手に肥料等を混ぜ込みながら植え付けました。前日に6年生と4年生が試しに植えたそうですが、その体験も踏まえて予定した時間より早く出来ました。最後に早く一面の芝生になれるとの思いで水をあげました。





## 中学校より

中学校では、幼稚園のように毎日保護者同士が顔を合わせることもなければ、小学校のように6年間という時間をかけて保護者が交流を深めていくこともできません。あっという間の3年間なのですが、保護者の皆様が学校とも他の保護者ともいい人間関係が作れ、有意義な附坂中保護者生活を送っていただけるようにと、松韻会では6月20日(土) オープンスクールでの親子セミナー後、保護者交流会を開きました。



1年生グループと2・3年生グループに分かれて保護者だけの意見交換では、疲れがたまった子どもたちを見守る悩みや部活での問題、水泳授業の準備で困った話や通学時の心配な話など、子どもたちの生活に密着した話題でにぎやかに。その後お迎えした先生方との交流では、新しい環境でがんばっている1年生の話や、うれしい成長が見られる2・3年生の話などをお伺いできたり、質問に答えていただいたり、雑談したり。あっという間の1時間半でした。

終了後のアンケートに、「楽しく有意義な時間だった」とか「同じ悩みがあることが解って少し安心した」とか「普段お話ししたことのなかった保護者の方と交流できて楽しかった」と書いてくださった保護者の方が多かったです。この新しい出会いから、保護者の皆様が次に中学校に足を運ぶのを楽しみにしていただけると幸いです。

今後、中学校松韻会では、研修旅行や講習会等を予定しております。みなさま、気軽にどうぞ参加ください！

## 特別支援学校より



7月9日(木)に保護者の「救命救急法講習会」(研修部主催)を開催しました。この研修会は、とっさの時にも行動できるように、頭で覚えるのではなく、身体で覚えていくために、毎年一回必ず行っています。今年も、坂出市の消防本部より救急救命士の藤井さんをお迎えし、AEDの取り扱い方と熱中症への対応について学びました。身近な熱中症については、実体験をもとにした真剣な中にもユーモアのある分かりやすいお話に、参加者は聴き入っていました。また、AEDの取り扱い方の実技では、いつ遭遇しても落ち着いてできるように参加者は一つ一つ確認しながら真剣に行っていました。



同日、救急法講習会に先立って、「わいわいランチタイム」(文化部主催)も開催されました。昨年までは、「わいわいティーブレイク」として、単独で茶話会をしていましたが、今年から研修部と文化部のコラボということで、救急法と同じ日に行うことで、より多くの皆様に参加していただこうと試みました。毎日の子育てのことなど議題を決めずに自由に仲間と話し合い、楽しくランチタイムを過ごし親睦を深めました。



### 修学旅行

3年生は4月9日(木)～13日(月)まで、4泊5日の修学旅行に行ってきました。屋久島から知覧、そして長崎に至るコースです。屋久島では、各自で選択したコースに分かれて活動し、世界遺産にも指定されている豊かな自然を満喫しました。知覧および長崎では、戦争の悲惨さ、命の尊さ、平和の大切さをあらためて感じさせられました。



### 屋島集団宿泊学習



2年生は5月27日(水)～30日(土)まで、3泊4日の集団宿泊学習に行ってきました。1日目は野外炊事、2日目はカッター、3日目は屋島全体を歩くウォークラリーとキャンドルサービスでした。ハードなスケジュールにもかかわらず、120名全員がすべての行事をやり遂げることができました。クラスの友情も深まり、充実した宿泊学習になりました。

**中学校**

### 給食試食会



6月3日、1年生保護者を対象に給食試食会を試行しました。1年生の東西両クラスをそれぞれ半分に分け、子どもたちの隣りに保護者1名までの参加で実施しました。子どもたちにとってはいつもとちがってお家の人との楽しい給食、保護者にとっては懐かしい給食の味を満喫することができました。

### 英語活動自由参観

6月18日、19日、英語活動自由参観を計画しました。ALTやJTEの関係で参観日程が1学年毎にしか設定できませんでしたが、大勢の保護者の方に参観していただくことができました。子どもたちと保護者による英語でのコミュニケーション、子どもたちの積極的な姿が印象的でした。活動を通して、英語に楽しく慣れ親しむことができていました。



**小学校**

## 特別支援学校

### プール改修工事完成

今年の水泳シーズンに合わせて、プールの改修工事が完成しました。

部分的にペンキがはがれ、老朽化が目立っていましたが、色も鮮やかによみがえりました。また、これまでは、底が抜けるおそれがあった小プールも使えるようになりました。

水泳の授業では、様々な道具や水泳用ヘルパーを使いながら、顔を水につけられなかった子どもたちが、やがて泳げるようになっていきます。また、放課後には、部活動参加の生徒が、水泳大会をめざして一生懸命に泳ぐ姿も見られます。

渇水の心配もされていますが、恵みの雨が降り、子どもたちが新しいプールでしっかりと泳げることを願っています。



## 幼稚園

### お家の方と一緒に「命のお話」

6月2日、年長児と保護者を対象に、助産師さんをお迎えして、「命のお話」を実施しました。赤ちゃん人形やエプロンシアターを使って、子どもたちにも分かりやすく「受精から出産まで」の命の不思議なお話をさせていただきました。何億分の一から選ばれた命であることから、自分を大切にすることや、友だちを思いやることなどを感じたと思います。

また、保護者の方からも、「我が子が誕生した時の感動を子どもに伝えたい」「性について話をするきっかけになった」など、感想が寄せられました。



### 楽器の演奏や歌を聴きながら「交通安全教室」



5月20日、「音楽による交通安全教室」を開催しました。

ボランティアの方々、フルートやパーカッション、ピッコロ等で、ボニョさんぼの演奏を聞かせてくれたり、一緒に交通安全の歌を歌ったりしてくれました。子どもたちは終始、目を輝かせながら楽しく交通安全のきまりを学ぶことができました。

- ・車に乗るときはチャイルドシート
  - ・横断するときは右左右を見て手を上げて
- の二つの約束は、心にしっかり残ったようです。

### 編集後記

平成21年度がスタートして、3ヶ月が経ちました。各校園とも様々な行事が行われ、子どもたちも健やかに成長しています。

今年度、幼稚園は新教育指導要領が全面实施され、小学校・中学校では、新しい学習指導要領の一部が先行実施されています。特別支援学校の新学習指導要領等についても幼稚園、小・中学校に準じて実施されています。新しい教育要領・指導要領の理念を大切にしながら、それぞれの学園で、創造的な教育活動に取り組んでいます。

幼稚園、小学校、特別支援学校は、平成22年1月に、中学校は平成22年6月に研究発表会を開催する予定です。今後とも、皆様方のご指導・ご支援をどうぞ、よろしくお願いします。

発行年月日：2009年7月17日

発行事務局：附属坂出小学校内

佐藤 美芽 (附属幼稚園)

横山 新二 三宅 永哲 (附属坂出小学校)

寺岡 英郎 木谷 直充 (附属坂出中学校)

武田 光弘 伊藤 宏美 (附属特別支援学校)